

I 研究の概要

1 研究主題

自分の考えを互いに分かりやすく伝え合う子供の育成
～複式学級のをさを生かした学習指導を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 背景

これからの社会においては、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展し、今の子供たちはこれまでよりもますます複雑で予測困難な時代を生きていかなければならないと言われている。

こうした変化の激しい社会の中では、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、再構成するなどして新たな価値につなげていくことが求められている。そのため学校教育において

は、子供たちが学習を人生や社会と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯に渡って能動的に学び続けることができるよう、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」といった学習者である子供の目線の授業改善が求められる（資料 1）。

本校では、次のように学校教育目標、目指す子供像と重要指導事項を設定し、日々授業改善を図っている。

学校教育目標	心豊かで すすんで学び たくましく 生きる力を備えた宇宿っ子の育成
目指す子供像	他者と協力したり，学び合ったりする学習ができる子供
重点指導事項	複式学級の特徴を生かした学習指導法の研究・改善

平成 15 年度からは、県総合教育センターの研究提携校として、複式学習指導についての研究・実践をしている。令和元年度の研究では、平成 31 年度全国学力・学習状況調査から明らかになった課題「自分の考えを明確にもち、他者の考えを生かしてよりよい考えをつくり出す」の改善を図るために、話し合いを通して自分の考えを広げたり深めたりするために不可欠な「対話的な学び」に重点を置いた授業づくりを行うことが大切だと考え、研究実践を行ってきた。

【資料 1 新学習指導要領改訂の方向性
「平成 28 年度文部科学白書」より】

